

事業所における自己評価結果

公表日：2026年1月31日

事業所名：児童発達支援 はぐちるランド水元

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		<ul style="list-style-type: none"> ・国の基準を満たす十分な広さ（70㎡以上）を確保 ・死角の少ない見通しの良いレイアウト ・グループ活動と個別支援の両方に対応できる可動式の机・椅子を導入 ・換気や採光を意識した環境づくりで快適性を確保 ・児童10人に対して指導員2人以上を配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・当園の訓練指導室は約70㎡以上御座います。国の設置基準である児童一人当たり3㎡以上、集団活動が行えるよう、死角のない指導員の目が届く一つの空間で児童発達支援事業であれば30㎡以上の広さという基準の2倍以上の広さをご用意しております。 ・活動内容や人数の変化に応じて、配置や備品を柔軟に見直し、より多目的に活用できる環境へ改善する。
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・加算要件を満たす有資格者（保育士・児童指導員など）を配置 ・職員間で役割担当を明確化し、グループ活動と個別支援を両立 ・定期的に職員会議を行い、配置の工夫や支援体制の見直しを行っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童10人に対し指導員2人という国の人員配置基準に加え、加算要件を満たす人員配置を行っております。保育士、児童指導員など児童、福祉分野での経験と専門性を備えたスタッフ配置を務めております。 ・今後も専門性を持つ人材の採用・育成を進め、安定した人員体制を継続強化する。
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・車いす対応トイレや段差解消済み ・視覚的にわかりやすい掲示やスケジュール提示 ・活動の流れをカードで示し、安心感を確保 ・個々の特性に応じた環境調整を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・構造化ツール（絵カード・タイマー等）をさらに充実 ・バリアフリー設備を定期点検し、必要に応じて改修・備品追加 ・専門家や保護者の意見を取り入れた環境改善を進める
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・24時間換気システム行っております。 ・感染症予防のため、次亜塩素酸水での除菌清掃も行っております。 	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃・消毒チェックリストを用いた可視化を徹底 ・感染症流行期に備えた臨時マニュアルを整備 ・職員研修を通じて衛生管理の意識を高める
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・個室を2部屋設置し、必要に応じて利用可能 ・集団が苦手な子どもに配慮して別室での活動を実施 ・落ち着いて過ごせる安心できるスペースを確保 	<ul style="list-style-type: none"> ・照明や音など感覚過敏への配慮を検討 ・個別支援と集団活動のバランスを考慮した環境設計を進める ・保護者の声を反映し、より安心できる空間を充実させる
業務 改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・PDCAサイクルを意識し、職員会議やミーティングで定期的に振り返りを実施 ・利用児童にとってより良い支援ができるよう、日常的に改善点を意識して業務を実行 ・各職員が自由に意見を出せる雰囲気づくりを推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・月次の振り返りを形式化し、改善内容を記録・共有する仕組みを強化する ・職員の意見を吸い上げる場をさらに増やし、出勤頻度が少ない職員の意見も反映できる仕組みを整える ・BCPやリスク管理も含めた長期的な改善計画を策定する
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートや面談を通じて意見を収集 ・アンケート結果を集計し、改善に活かせるよう取り組みを実施 ・保護者が意見を出しやすい雰囲気を大切にしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・評価表やアンケートの結果を定期的に公表し、透明性を高める ・保護者が匿名でも意見を提出できる仕組みを導入し、率直な意見を反映できる体制を作る ・保護者からの要望を具体的な改善策に落とし込み、実行状況をフィードバックする
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な職員会議で意見を出し合う時間を確保 ・ケース会議を通じて個別支援の工夫や課題を共有 	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数の意見交換会など、発言しやすい場を増やす ・職員満足度調査を定期的に行い、改善点を把握・実行に結びつける ・収集した意見を分析し、業務改善計画に反映する仕組みを構築

事業所における自己評価結果

公表日：2026年1月31日

事業所名：児童発達支援 はぐちるランド水元

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		<ul style="list-style-type: none"> 定期的な外部評価を受け、継続的な改善サイクルを構築する 評価内容を保護者にも共有し、安心と信頼の向上につなげる 外部評価機関との連携を強化し、専門的視点からの助言を取り入れる 研修内容を体系化し、全職員が均等にスキルアップできるよう計画的に実施する 外部講師を招いた研修を定期的開催し、専門性を高める 職員の自己研鑽を奨励し、学んだ内容を現場で実践できる仕組みを整える
	10 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		<ul style="list-style-type: none"> スタッフミーティングでの研修やケース会議を実施 外部研修や専門家による講習に積極的に参加 職員が得た知識を園内で共有する仕組みを整備 	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 個別支援計画を基に、児童一人ひとりに合わせたプログラムを作成 活動内容をサービス提供記録やHUGシステムで共有 保護者にも分かりやすい形で情報提供 保護者面談や観察を通じて課題を把握 	<ul style="list-style-type: none"> 支援プログラムを定期的に見直し、更新内容をホームページ等で積極的に公表する 保護者が確認しやすいツールを整備し、透明性を高める
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 行動観察や発達検査の結果を活用 個別支援計画に落とし込み、日常支援に反映 児発管が作成した計画書を全職員で共有 	<ul style="list-style-type: none"> アセスメントフォーマットを改善し、記録の精度を高める 外部機関（医師・専門家）との情報共有を積極的に行う
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 職員会議やケース会議で支援内容を確認 HUGシステムを用いて誰でも参照可能 	<ul style="list-style-type: none"> 支援計画の共有方法をさらに効率化し、代替職員やヘルプ職員も理解しやすい仕組みを整える 実行状況を定期的に振り返り、必要に応じて即時修正できる体制を作る
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 各児童ごとの支援ファイルを整備し、日常的に活用 職員が共通理解を持って支援できる体制を構築 HUGシステムで支援履歴を記録し、振り返りを可能にしている HUGシステムを活用し、行動や発達の状況を記録 	<ul style="list-style-type: none"> 支援計画と実施状況の照合を定期的に行い、一貫性を高める フィードバックの仕組みを充実させ、改善点を迅速に反映する
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		<ul style="list-style-type: none"> 職員間で日常的に確認し、情報を共有 写真や動画も活用し、家庭とつながる支援を実施 	<ul style="list-style-type: none"> 記録フォーマットの改善を進め、行動変化を分かりやすく可視化する 記録データを分析し、個別支援計画の精度向上に活用する
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインの「本人支援」「家族支援」「移行支援」を参照し、計画を作成 支援内容を個別支援計画に落とし込み、具体的な支援方法を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ガイドラインの更新情報を定期的に確認し、計画に反映 支援計画の内容をより具体化し、実行しやすい形に落とし込む
	17 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		<ul style="list-style-type: none"> 主な活動はチームで検討し、担当職員が細かな課題を立案 会議で個別提案を出し合い、改善に活かしている 子どもの発達や興味に応じて内容を変更 	<ul style="list-style-type: none"> 提案内容を体系的に整理し、継続的に改善できる仕組みを整備 保護者の意見も取り入れたプログラム立案を進める 新しい活動プログラムを積極的に導入
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		<ul style="list-style-type: none"> 外出や多様な活動を取り入れて刺激を提供 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長段階に合わせ、難易度や方法を柔軟に調整

事業所における自己評価結果

公表日：2026年1月31日

事業所名：児童発達支援 はぐちるランド水元

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
	19	○		・一人ひとりの発達段階に応じ、個別課題と集団活動を組み合わせた支援を実施 ・社会性を養う視点を持ちながら、柔軟にプログラムを調整	・個別支援の充実をさらに進め、ニーズが強い利用者には一層丁寧に対応 ・集団活動の質を高め、社会参加に向けたスキル習得を促進
	20	○		・活動開始前にミーティングを行い、役割分担や支援方法を共有 ・利用児童の様子を踏まえて柔軟に担当を調整	・確認の範囲を広げ、支援方針や細部まで共有できるよう強化 ・誰もが意見を出しやすい雰囲気づくりを進める
	21	○		・活動終了後にミーティングを行い、支援の成果や気づきを記録 ・次回以降の課題設定や支援方法の改善に活用	・振り返りを形式化して記録を蓄積し、継続的な改善に活かす ・利用者の視点も取り入れた振り返り方法を検討する
	22	○		・支援終了後に記録を徹底 ・HUGシステムで支援履歴を管理し、情報共有を容易化	・支援記録の質をさらに高め、分析可能なデータとして活用 ・記録内容を振り返る定期的な会議を設け、支援の一貫性を強化
	23	○		・半年に一度モニタリング会議を開催し、計画の妥当性を確認 ・保護者と協議しながら、現状に即した支援計画に更新	・モニタリングをより頻繁に行い、支援計画に即時反映する仕組みを強化 ・記録やデータを基に科学的な分析を取り入れ、計画の質を向上
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	24	○		・障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか ・児発管または管理者が可能な限り会議に参加し、情報を共有	・会議参加率をさらに高め、情報の一貫性を確保 ・出席できない場合は書面で情報共有を徹底する
	25	○		・地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか ・医師や教育機関と必要に応じて情報交換	・定期的な情報交換会を設け、継続的な連携を強化 ・医療・教育関係者からの助言を積極的に支援計画へ反映
	26	○		・併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか ・就学前に保育園・幼稚園と情報共有	・小学校や受け入れ先との引き継ぎ体制を整え、スムーズな移行を支援 ・保護者にも移行支援の流れを分かりやすく説明
	27	○		・就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか ・必要に応じて学校に向き、支援方法の共有に努めている	・学校との定期的な連絡体制を構築 ・児童本人にとって無理のない形で連携を検討
	31	○		・地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか ・必要時にセンターと情報交換を行っている	・定期的にセンター職員との意見交換会を設ける ・スーパーバイザーの指導を受ける機会を増やす
	32	○		・保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか ・園の方針に合わせて柔軟に支援	・交流活動の機会を増やし、地域資源との連携を促進 ・保育所・幼稚園側の意見を取り入れた協働を進める
	33	○		・日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか ・サービス提供記録やLINE、送迎時の会話で情報共有	・保護者との面談機会をさらに増やし、意見交換を充実 ・情報共有の方法を多様化し、双方向性を強化
	34	○		・家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか ・保護者合同支援を実施	・保護者支援プログラムの内容を拡充 ・情報提供に加え、実践的な支援スキルを学べる場を提供
	35	○		・運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか ・不明点はその場または随時、職員が丁寧に回答	・説明内容をより分かりやすく資料化し、保護者に提供 ・新規利用者だけでなく既存利用者にも定期的に再説明の機会を設ける
	36	○		・児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか ・作成時に保護者の意見を確認し、内容に反映	・保護者アンケートを取り入れ、意向をより的確に反映 ・外部専門家の意見も交えて計画内容を見直す仕組みを構築
	37	○		・「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか ・半年ごとを目安にモニタリングを行い、支援内容を見直しした上で保護者に提示	・説明方法をさらに分かりやすく工夫し、保護者が内容を理解しやすい形に改善 ・同意を文書だけでなく、電子的にも確認できる仕組みを導入検討
				・HUGシステムを通じて、保護者がいつでも確認できる環境を整備	・計画に対するフィードバックを保護者から随時受けられる体制を整える

事業所における自己評価結果

公表日：2026年1月31日

事業所名：児童発達支援 はぐちるランド水元

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
保護者への	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・モニタリングや要望に応じて面談を実施 ・LINEなどを通じて随時相談を受付	・定期的に短時間の「相談タイム」を設けて気軽に利用できるようにする ・周知を徹底し、相談しやすい環境づくりを強化
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・合同支援を毎年行っている	・オンラインでの開催も検討し、参加しやすい形にする

事業所における自己評価結果

公表日：2026年1月31日

事業所名：児童発達支援 はぐちるランド水元

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
説明責任等	40	○		・HUGシステムやLINEで随時相談可能 ・対応は速やかに職員間で共有し処理 ・月1回「はぐちる便り」を発行	・対応内容を可視化し、改善までフィードバックできる体制を整える ・第三者機関への相談ルートも周知して安心感を高める ・情報発信を体系化し、HPやSNSでも幅広く共有
	41	○		・毎日の活動を写真付きでHUGやLINEにて発信 ・鍵付きキャビネットで厳重に保管	・保護者が見返しやすい形でまとめる工夫を進める ・職員対象の個人情報保護研修を定期的に実施
	42	○		・ICTシステムにもセキュリティ対策を導入 ・療育支援システム「HUG」や公式LINEで日々の活動を共有	・ICT利用拡大に伴うリスク管理を強化 ・情報の伝え方をさらに工夫し、わかりやすい資料やツールを導入
	43	○		・写真や動画を活用し、言葉だけでは伝わりにくい部分も可視化 ・送迎時や面談での直接のやりとりを重視	・保護者が双方向で意見を出しやすい仕組みを充実 ・聴覚・視覚に配慮した多様な情報提供手段を検討
	44		○		・地域交流イベントを再開し、地域に開かれた運営を推進 ・今後は保護者だけでなく地域住民とのつながりを強化し、理解促進の場を増や
非常時等の対応	45	○		・避難マニュアルや緊急時対応マニュアルを整備 ・月1回の避難訓練を実施し、職員で振り返りを共有	・周知・訓練に不足があるため、内容をさらに充実 ・必要に応じてマニュアルを見直し、常に最新化する
	46	○		・BCPを策定し、定期的な避難訓練を実施 ・職員が役割を理解できるよう共有	・保護者も対象とした避難・救出訓練の実施を検討 ・職員が実際に体験できるシナリオ型訓練を導入
	47	○		・健康状況を保護者記入シートで把握 ・必要に応じて聞き取りを実施	・職員一人ひとりが注意点を定期的に確認する体制を整える ・情報共有を徹底し、支援に反映する
	48	○		・アセスメント時にアレルギーの有無を確認 ・提供するおやつや原材料を周知 ・アレルギー一覧表を作成	・誤提供を防ぐための二重確認体制を導入 ・定期的アレルギー対応研修を実施
	49	○		・安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか ・外部研修にも参加し、知識を深めている	・訓練が十分でない部分を改善し、より実効性を高める ・マニュアルを見直し、常に最新の体制を整える
	50	○		・避難方法を職員間で共有 ・ミーティングで外部の事例も参考に検討	・外部の研修に積極的に参加し、実践的な知識を取り入れる ・保護者への周知も徹底する
	51	○		・危険な事例があった場合、特定の報告書に記載しミーティングを通して職員で共有	・より多くの職員が外部研修に参加できるよう体制を整備 ・資格取得支援も含めて研修制度を充実
	52	○		・虐待防止研修を園内研修・外部研修で定期的に実施 ・ケース会議等で倫理的配慮について話し合い、職員間で意識を共有 ・通報体制や相談窓口も明示し、安心して働ける環境を整備 ・身体拘束は原則禁止とし、切迫性・非代替性・一時性の原則を徹底	・虐待防止に関する最新知識を学ぶため、外部研修の受講機会をさらに拡充 ・職員一人ひとりの実践スキルを高めるため、ロールプレイ研修を導入 ・虐待防止に関するチェック体制を強化し、未然防止を徹底 ・保護者への説明資料をさらに分かりやすく整備
53	○		・必要な場合は保護者へ事前に説明し、十分な理解と同意を得た上で計画に記載 ・職員間で共通認識を持ち、誤用を防止	・職員への定期的な研修で適正な判断基準を再確認 ・事例検討を通して、身体拘束を最小限にとどめる工夫を継続	